
心の雄叫び届けましょうか???

パンタローネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の雄叫び届けましょうか???

【Nコード】

N3051C

【作者名】

パンタローネ

【あらすじ】

学校つて今振り返ると楽しかったよなあ。友達と、いや、チング達とバカ騒ぎしたり。友達と、いや、チング達と部活で汗流したり。夏休みとか、冬休みとか相当エンジョイしたよなあ。でも…始業式って嫌だったなあ。まだまだエンジョイしたいっていうか、まだまだ休みが足りない感じ???それに追い討ちかけるような始業式で校長の長話。あれは正直しんどかったなあ……

【前編】

《キーンコーン カーンコーン》

教頭 『もっとディフェンスライン上げろ!!! あっ、静かに!!!』

生徒達は一度はディフェンスラインを上げたものとりあえずは静かになった。

教頭 『…では、校長お願いします』

校長 『マイボ!!! マイボ!!! あっ、皆さんおはよう!!!』

生徒 『………す』

校長 『うん、明らかに《す》しか聞こえなかったね』

生徒 『………ちっ』

校長 『うん、舌打ちって皆でしたら結構きくわあ』

教頭 『おい、はよしゃべれ!!!』

校長 『あれ、タメ口したよね??? おかしいよね???』

教頭 『ああわりい』

校長 『おいこら、てめえクビにする権利オレ持ってるかな』

生徒達がまた騒ぎだした。

教頭 『静香ちゃんにしなさい!!! あっ、静香にしなさい!!!』

校長 『静香ちゃんにも選ぶ権利はあるから。ってかもういいや。ええ今日から2学期が始ります』

瞬間的にテンションが下がった生徒達。
それでも校長の話は続く。

校長 『気持ちの切り替えをして2学期にはいつてもらいたいと思います。そこで……』

生徒達は嫌な予感がした。このバカ校長はまさかしないよな???
そんなわけがない。
と、ものすごく願った。

しかし、願いは一瞬で消えた。

そんなこんなで休みボケなくしちやえテスト。
略してヤボなテスト。
生徒、教頭は嫌々する事になりました。

続く。

【後編】

【あらすじ】

いきなり、あーして、ついでに、こーして、何か結局そーしてその後、ばんって感じでテストしまあーす。

校長 『 適当っ！！！前は結構オレ奮闘したよね？？？』

教頭 『 おいつ！！！早くテストしろや！！！』

校長 『 あっ・・・はい』

生徒 『 用事があるんで帰ります』

校長 『 あっ・・・はい。ん？？？おっ、おいつ！！！ダメだからテストで私が納得する点数を取ったらいいですよ』

生徒 『 納得するって何点なんですか？？？村長』

校長 『 校長だから。そうだねえ・・・80点以上ならまあ納得しますかねえ』

教頭 『 バカにしてんのか！！！いい加減にしろよ！！！いくら何でもそれはバカにし過ぎでしょうが！！！80点以上？？？ふざけんなよ！！！40点以上になりませんか？？？』

校長 『 却下』

教頭 『シビアあ』

まあこんなノリでテストが始まりました。生徒&教頭は意外にテスト中は真剣に問題に集中してテストをしていました。

そして1時間後テストは終了しました。

校長 『はいっ終了おー!!!後ろからテストを回して下さい』

生徒 『やるだけの事はした。あとは採点待ち』

教頭 『カンニングはした。あとは採点待ち』

集め終わったテストを校長が手に持ち採点するため別室に移動した。全校生徒20人+教頭+21人分を校長は半ばめんどくさそうに採点した。いや、明らかにめんどくさそうだ。

そして採点が終わり、いよいよ発表の時。

校長 『では・・・発表します!!!』

生徒 『ちょ、ちょっと待って下さい!!!』

校長 『どうしました???』

校長 『ちよつと聞いてくれるかな???』

生徒 『いやだ!!!!』

教頭 『いやだ!!!!』

校長 『ハモネプ???あつ、いや、いいから聞きなさい』

すると校長は若干微笑みながら言った。

校長 『皆を試すような事をしてすまなかった。これにはまあまあ、そこそこ、いや、結構、いや相当……』

生徒 『どれでもいいです』

校長 『あつ……はい。こんな事をした理由は、私は今日で校長を辞めるんだ。もう年だからねえ。これからは自分のやりたい事をして行こうと思ってるね。だから私がいなくなっても君達がちゃんとやっていけるかどうか心配だね』

生徒 『校……隊長』

校長 『最初に言おうとしたのであつてるからね』

教頭 『校長!!!あとは私におまかせ下さい!!!しつかりこの学校を守って行く次第です!!!』

教頭は明らかにうれしそうだ。 念願の校長になれるのだから。

校長 『教頭。ありがとう。でも・・・校長は他の人によってもらうから。キサマは永遠に教頭してろ!!!』

教頭 『ほんっと・・・シビアあ』

その後、校長は店長になり、船長になり、艦長になり、村長にもなった。更にはどこかの隊長にもなったらしい。(教頭の予想)

場面は変わって、周り一面は山、森、ジャングル???まあ山の中だ。そこに木造1階建ての古い小学校がる。みなさんが想像するであろうレトロの感じが全面にでた感じ。全校生徒10人の小規模な小学校。その小学校に10人の生徒が元気に集団登校している。門の所には薄気味悪いジジイがいる。

生徒 『おはようございまーす!!!団長』

『校長だから』

完。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3051c/>

心の雄叫び届けましょうか???

2010年10月15日21時19分発行